



県北地区読書支援者育成事業研修会の講義・演習より 「絵本でカルタ」を実践してみませんか？

7月2日(土)に福島県自治会館において、子どもの読書活動推進に向けて活動する専門的な知識や技能の向上を目的として「県北地区読書支援者育成事業研修会」を開催しました。「絵本でカルタ」のパイオニアである岩手県立図書館司書の沼宮内望氏から直接お話を伺うことができ、参加者にとって大変貴重な体験となりました。

学校現場でも活用できる「絵本でカルタ」

- ① 紹介したい絵本を選びます。
- ② 絵本のあらすじや特徴的な人物の紹介等を5・7・5などのリズムで表し、読み札を作成します。
- ③ 机に絵本を、カルタのように並べます。
- ④ 読み手が読み札を読みます。
- ⑤ 取り手は読み札の内容に合った絵本を探して取ります。
※ 本は丁寧に扱う。
- ⑥ 絵本を取った人は、その内容を簡単に紹介します。読んだことがない本を取った場合は、「題名」や「挿絵」等の表紙から得られた情報に対する感想等を話します。
- ⑦ 全ての絵本が取られたら終了です。

絵本を手取るきっかけともなる「絵本でカルタ」を、実践してみたいかでしょうか。



ぬけないよ
みんなで一
緒に
ひっぱろう！

〈読み札の例「おおきなかぶ」〉



〈絵本でカルタの実践〉

教職員のメンタルヘルス対策を

先生方が心身ともに健康で力を発揮してこそ、子どもたちが生き生きと学ぶことができます。不調を未然に防ぐためには、「セルフケア」が大切です。

- ＜ストレス対処能力を高めるスキルの向上のために＞
- バランスのよい食事をしていますか
 - 睡眠時間を十分とっていますか
 - 家族や友人に連絡を取っていますか
 - 信頼する人と十分に話していますか
 - 散歩をしていますか
 - 自然に触れる機会がありましたか
 - 音楽を聴きましたか
 - お風呂にゆっくりつかりましたか
 - 読書をしましたか

※ふくしま福祉だよりNo213(R4.5月発行)にセルフケアについて特集されています。ぜひ参考にしてください。



事故防止のために

○ 不祥事の根絶に向けて

ひとたび、不祥事が起きてしまうと、児童生徒、保護者、地域からの信頼が失われ、その後の教育活動に支障を来すばかりでなく、失った信頼を回復するためにこれまで以上の努力が必要になってきます。不祥事を他人事と捉えず、不祥事が起きたらどうなるのかという危機意識を共有し、校長先生のリーダーシップのもと、信頼される学校づくりに取り組んでいただきたいと思います。

○ 交通事故防止

これからの季節は、積雪や凍結による交通事故が心配される時期です。「急ハンドル」「急ブレーキ」をせず、車間距離を多めにとり、安全運転に心がけましょう。そのためにも、心にゆとりをもって運転することが大切です。



＜臨時的任用教職員（講師等）に採用可能な人材確保に向けて＞

現在、各種補充の講師等が不足しており、講師等に採用可能な人材を探しています。情報がある場合は管理職にお伝えください。

教育広報



県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

☎024-521-2813

発行者 川井 孝寿

巻頭言



「教育は愛とリスペクト！ ～子どもは学校のアンバサダー～」

県北教育事務所長 川井 孝寿

私が通勤する通りにある中学校では、いつも校長や生徒指導担当と思しき先生のあいさつ運動を目にする。暑い日も寒い日も笑顔で生徒にあいさつを続ける姿には本当に頭が下がる。

ある朝、所用のため車で通勤した時のことである。横断歩道の横に立つ1年生らしき小学生を見かけ、停止して横断を見守った。すると、渡り終えた3人が横一列になってこちらを向き、一斉にお辞儀をしたのである。その礼儀正しく、可愛らしい姿に、私は小学校にお礼を伝えずにはいられなくなった。

次の年、今度は中学年と思しき男の子と交差点で出会った。私が自転車を止め、行き過ぎるのを待っていると、私の目の前でこちらにペコリと会釈をしたのだ。それはとても自然で、気持ちの伝わる会釈であった。私はまたも、受話器をとった。校長先生は代わられていたが、この学校のあいさつを大切にしている心がしっかり育まれていることを実感した。

それから、1年ほど過ぎた頃だろうか。高学年らしき男の子が「おはようございます」と笑顔であいさつをしてくれた。そして先日、狭い歩道ですれ違った中学生が丁寧な会釈をしてくれた際に、足取りが軽くなるのを覚えるのと同時に、校門に立つ校長先生の顔が思い浮かび、はっと気づいた。自分が今、一市民として、地域の子どもの振る舞いに喜びを感じ、その子ども越しに伝わってくる地域の学校の文化や先生方の指導に感謝していることに。そしてこの感情こそが、学校に対する地域の信頼に他ならないことに。

児童生徒は、学校と地域（保護者）をつな

ぐ、偉大なアンバサダー（大使）なのだ。学校から帰った我が子の表情は、連絡帳やお便りよりも雄弁に学校の様子を保護者に語るものである。生き生きと楽しそうに話すのか、ため息をついて無口になるのか、はたまた不満を漏らすのか、保護者が抱く学校の印象、評価は大きく分かれることになる。言い換えれば、私が感動した児童生徒の校外での振る舞いは、どんなに取り繕ってもごまかしが利かない、シビアな『教育活動の成果』と言えるだろう。新たな目線から、これまでの自分の指導や学校経営を見直す良い機会となった。

改めて、今年度訪問させていただいた管内の109校を振り返ってみると、確かにどの学校も児童生徒をしっかりと捉え、きめ細かな指導に努める姿が顕著であった。授業では、個に応じた丁寧な言葉かけや目配りなど、指導者の子どもに対する愛情と学びへの情熱が感じられた。また、掲示物には温かい称賛や励ましが書き込まれており、さらに児童生徒の絵に直接画鋏を刺さない工夫に、作品を大切に扱う先生方の優しさを見た。子どもたちはきっと、その一言に癒され、時には鼓舞され、また先生からの愛を感じながら、自己有用感や自己肯定感を高めているに違いない。それが自然にアンバサダーの振る舞いとなって表れ、私のような地域住民を魅了していることを確信することができた。先生方の日々の御努力に心より感謝を申し上げる。

私も同じ域内の一教員として、常に子どもたちへの愛情とリスペクトを忘れない教員であり続けたいと、強く願う今日この頃である。



R4 全国学力・学習状況調査の結果から「県北の幸せを紡ぐ」大作戦！



今、小学3年生を担当しています。全国学力・学習状況調査の結果って、自分の日頃の授業にどのように生かしていくのかよくわかりません。あゆみ先生教えてください。

わかば先生 (初任の先生)

わかば先生、まずは、実態を捉えることが大切です。今日は、「県北地区全体の傾向」について、一緒に考えてみませんか。

あゆみ先生 (ベテランの先生)

作戦1 どの教科等でも根拠に着目

「根拠を明確にして書く」「根拠(理由)を説明する」「根拠を基に考察する」授業づくりが求められます。国語科、算数・数学科に限らず、「どの授業でも根拠について考えること」を、みんなで大切にしていきたいと思います。

作戦1の例 根拠を引き出す 数学科コアティーチャーの授業より

根拠を引き出す **問い返し**

T: 1辺n個ずつ基石を並べて正方形をつくる時、必要な基石の数は?
S: $4(n-1)$ です。

T: **なぜこの式になったの?** T: $(n-1)$ って何?

根拠を引き出し、考えを深める **問い返し**

【事実】「どういうこと?」
【方法】「どう考えた?」
【理由】「なぜ?」

教師→生徒 だけでなく、
生徒→生徒 の問い返しへ

(福島市立清水中学校 村田 利公 教諭)

作戦3の例 振り返りを重視 学級・授業づくりセミナーより

「子どもが学びがいを感じるための『振り返り』を重視した授業づくり」について実践発表をしました。元理科コアティーチャーによる講座を、ご覧ください。キーワードは、「ゴールからの授業づくり」です。

[小学校] [中学校]

山折町立伊達崎小学校 小野 絢子 教諭

川俣町立川俣中学校 玉野 寛子 教諭

小・中学校 各教科共通に見えてきたこと

【国語科の伸びしろ】 ※本稿では課題を「伸びしろ」と捉えて表記しています。
小: 文章に対する感想や意見を **伝え合い**、**自分のよいところ**を見付ける。
小: **互いの**立場や意図を明確にしながらか計画的に **話し合い**、**自分の考え**をまとめる。
中: **自分の考え**が伝わる文章になるように、**根拠**を明確にして書く。

【算数・数学科の伸びしろ】
小: 分類整理されたデータを基に、**目的に応じて**データの特徴を捉え、考察する。
中: **目的に応じて**式を変形したり、その**意味を読み取ったり**して、事柄が成り立つ**理由**を説明する。

【理科の伸びしろ】
小: 資料から数量、変化の大きさなどの**特徴を読み取り**、**自分の言葉**で考えを表現する。
小: **目的に応じた**情報を取捨選択し、適切な**根拠**を基に考察する。
中: 観察、実験の結果を分析して解釈し、それらを**根拠**として考察する。
中: 学級全体での**話し合い**を通し、**互いの考え**の妥当性を検討する。

どうして? どこから?

どの教科でも、「理由」や「根拠」について、引き出してみます! 例えば…
図工: 「どうしてこの色を選んだの?」
体育: 「その場所で守ったのはなぜ?」

県北の伸びしろ

作戦1 根拠

県北のみんなで
取り組みたいこと

共有 振り返り

作戦2 作戦3

質問紙調査から見えてきたこと

質問紙(7) 自分にはよいところがあると思いますか。

小学校: 「当てはまる」と回答した児童が37.7% (全県比-0.6%、全国比-1.7%)
中学校: 「当てはまる」と回答した生徒が32.2% (全県比-0.7%、全国比-3.8%)

適時称賛
見取る・認める・ほめる

作戦2 思い・考えの共有が基盤

県北地区の子どもたちの自己肯定感に、課題があるのですね。私にできることはありますか。

子どもは、できて当たり前ではありません。子どもが努力しようとする気持ちを受け止め、小さなことでも認め、励ますことが大切です。

【思いを通わせ合った合唱コンクール】
不安でいっぱい1年生に、3年生が合唱を聴かせてくれたことから、思いの交流が始まりました。

私たちは先輩方の歌声を聴き、感動しました。あこがれの先輩に近づけるように、全力で頑張ります。(1年生より)

一人一人が自信をもち、仲間を信頼して楽しく歌えるように、頑張ってください。(3年生より)

あこがれの3年生から応援されたら、心強いですね。よさを認め合える関係づくりは、子どもたちの学校生活の土台となるのですね。

質問紙(16) 学校に行くのは楽しいと思いますか。

小学校: 当てはまると回答した児童が55.9% (全県比+1.0%、全国比+4.2%)
中学校: 当てはまると回答した生徒が42.9% (全県比-2.3%、全国比-2.9%)

「子どもがもっと活躍できる授業づくり」について、みんなで考えていきます!

きづき先生 (2年目の先生)

作戦2の例 見取りを共有に生かす 算数科コアティーチャーの授業より

全体の傾向を見る 取組の状況を観る

どんな図形が見えるかな? ICTで個の取組を瞬時に俯瞰指でなぞってみましょう!

見取り

ペアで確認 共有 見取りを生かして意図的指名

ペア・グループ 全体で発表

グループで練習上げ 個人で考えを整理したり、適用したりする。 ねらいに迫る問い返し

(伊達市立上保原小学校 石山 宏美 教諭)

作戦3の例 振り返りを全校で

「振り返りの視点」を設定し、全校で取り組んでいる学校を見付けました。

わ かったこと	わ かったこと
た のしかったこと	か んばったこと
が んばったこと	と もだちのこと
し りたいこと	も っとしりたいこと

【私の目標が決まりました!】

作戦1: どの教科でも、「どうして?」「どこから?」を、意識して使います。
作戦2: 授業以外の場面でも、子ども同士が思いや考えを共有することを大切にします。
作戦3: 振り返りの時間を確保できるように、話し過ぎないようにします。

CHECK これが「私のスタンダード」
—私の授業を支える言葉—
気になるところからお読みください。